



2026 年9月 29 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ニ レ コ

代 表 者 名 代表取締役社長 中杉 真一

(コード番号:6863 東証スタンダード)

問 合 せ 先 取締役執行役員管理部門長

佐々田 卓也

(TEL 042-642-3111)

新中期経営計画「NIRECO-VISION 100」の策定および

2027 年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026 年9月 29 日開催の取締役会において、2027 年3月期から 2031 年3月期までの5カ年を対象とする新たな中期経営計画「NIRECO-VISION 100」を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、新中期経営計画の策定に伴い、2027 年3月期通期連結業績予想を修正いたしますので、併せてお知らせいたします。

記

I. 新中期経営計画「NIRECO-VISION 100」について

1. 策定の背景および位置付け

当社グループは、1931 年に当社の前身にあたるアスカニア合資会社の創業以来、計測・制御・検査・光学に関する独自技術を磨き、生産現場の課題解決に取り組んでまいりました。2031 年にアスカニア合資会社の創業から 100 周年を迎えるにあたり、その次の 100 年も社会に貢献し、持続的に成長し続ける企業であるための「ありたい姿」として、人と生産現場に寄り添い課題を「はかる・みつける・ととのえる」企業(「NIRECO-VISION 100」)を目指すことといたしました。今般、「NIRECO-VISION 100」の数値計画をグループ内で取りまとめましたので、新中期経営計画としてお知らせいたします。

2. 2031 年3月期までの業績目標

本計画では、2031 年3月期に連結売上高 17,000 百万円、営業利益 3,300 百万円、営業利益率 19.4%を目標といたします。2026 年3月期実績である売上高 11,022 百万円、営業利益 1,701 百万円、営業利益率 15.4%から、売上高は約 1.5 倍、営業利益は約2倍(1.94 倍)へ拡大させる計画です。

	2026 年 3月期実績	2027 年 3月期計画	2028 年 3月期計画	2029 年 3月期計画	2030 年 3月期計画	2031 年 3月期計画
売上高	11,022	13,200	13,900	14,600	15,500	17,000
営業利益	1,701	2,000	2,250	2,400	2,700	3,300
営業利益率	15.4%	15.2%	16.2%	16.4%	17.4%	19.4%

3.成長戦略

オプティクス事業を成長の中核に据え、半導体・先端分野向け需要を着実に取り込むとともに、生産能力の増強および人材育成を進め、当社グループの成長を牽引する事業へ育成してまいります。

制御機器事業においては、鉄鋼・非鉄金属分野および機能性フィルム・軟包材分野の二分野体制により、顧客基盤の維持・深耕、海外市場や高機能材分野の開拓、開発・生産・保守の共通化等を通じて安定成長と高い収益性を目指します。

検査機事業においては、AI 活用、電極検査装置、選果・食品、高機能材、放射線計測装置など、強みを有し勝ち筋の明確な領域へリソースを集中し、収益性の改善を図ります。

4.現行中期経営計画との比較

新中期経営計画は、これまで当社ホームページに掲載の決算説明資料で示しておりました中期計画の方針を変更するものではありません。既に公表していますオプティクス事業の増産投資を踏まえてオプティクス事業の成長を中核とすることを再確認しつつ、他の事業ポートフォリオについても市場の見通しや当社を取り巻く環境を考慮し見直したものです。特に、「NIRECO-VISION 100」を視野に入れ、各部門・グループ会社も計画策定に積極的に参画し、より実効性の高い計画策定を目指しました。

その結果、売上高は現行中期経営計画を上回る水準へ見直す一方、営業利益はポートフォリオ見直し等の影響を織り込み、2028 年3月期および 2029 年3月期では現行計画を下回るものの、2030 年3月期以降の着実な利益成長を目指す計画としております。

	2027 年 3月期	2028 年 3月期	2029 年 3月期	2030 年 3月期	2031 年 3月期
現行中期経営計画 売上高	12,500	13,500	14,000	-	-
NIRECO-VISION 100 売上高	13,200	13,900	14,600	15,500	17,000
現行中期経営計画 営業利益	1,900	2,300	2,500	-	-
NIRECO-VISION 100 営業利益	2,000	2,250	2,400	2,700	3,300

Ⅱ. 2027 年3月期通期連結業績予想の修正について

新たな中期経営計画の策定に伴い、2027 年3月期通期連結業績予想を下記のとおり修正いたします。前回発表予想は、2026 年5月 14 日公表の「2026 年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載の 2027 年3月期通期連結業績予想によるものです。

(単位:百万円、%。1 株当たり当期純利益は円 銭)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	12,500	1,900	2,000	1,450	67.53
今回修正予想(B)	13,200	2,000	2,100	1,500	69.79
増減額(B－A)	700	100	100	50	－
増減率(%)	5.6	5.3	5.0	3.4	－
(ご参考)前期実績 (2026 年 3 月期)	11,022	1,701	1,794	1,441	196.75

(注)当社は、2026 年8月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、2027 年3月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。なお、前期実績の1株当たり当期純利益については、株式分割前の数値を記載しています。

修正の理由につきましては、現在の受注残高が高水準にあることや、オプティクス事業の生産性向上に伴い、収益が前回予想を上回る見通しとなったことによるものです。

なお、今回の業績予想修正に伴う配当予想の見直しについては、必要に応じて、11 月 13 日に発表予定の 2027 年3月期第2四半期決算に合わせて公表する予定です。

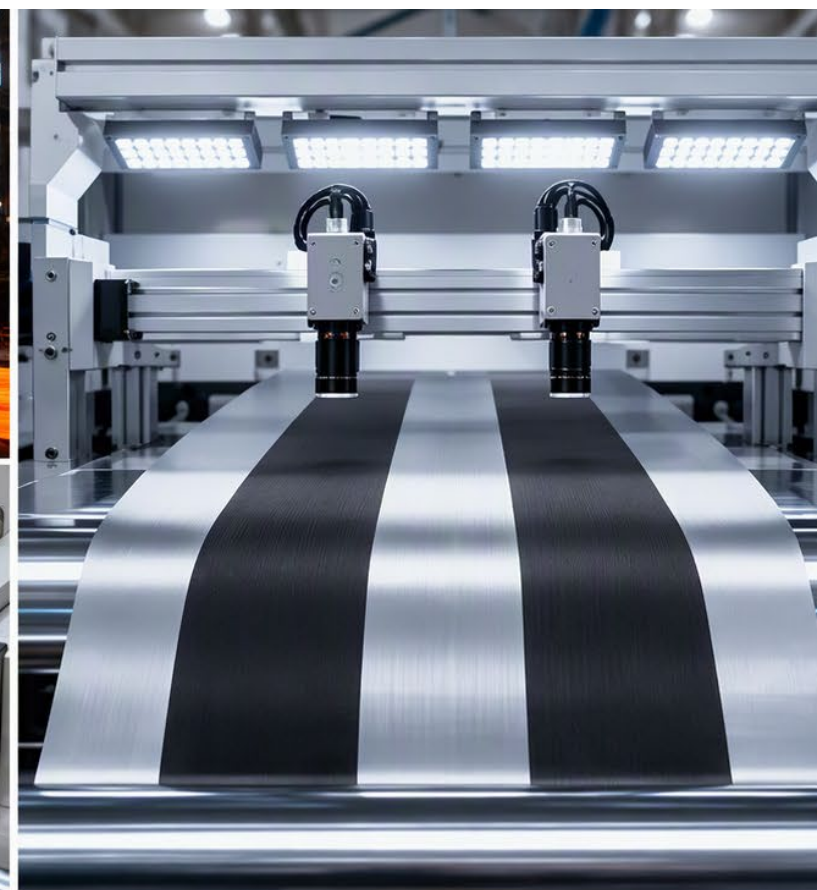
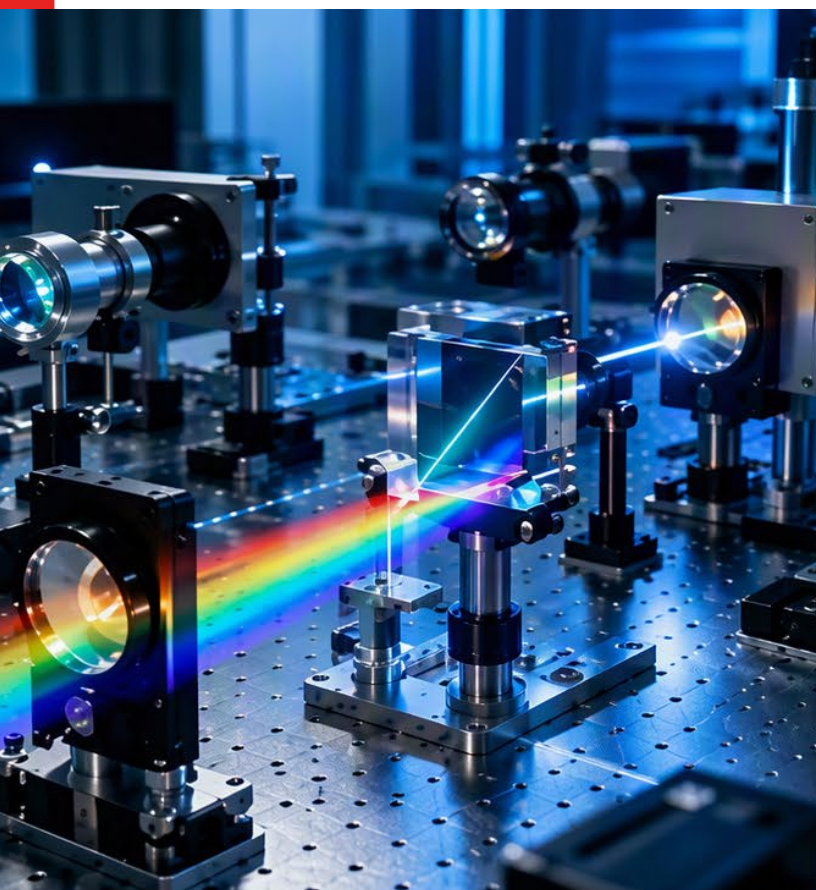
以 上

NIRECO

NIRECO-VISION 100

中期経営計画 2026年度 - 2030年度

人と生産現場に寄り添い
課題を「はかる・みつける・ととのえる」



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。また、使用している画像は、AIを使用して生成しているものが含まれます。

(証券コード: 6863)
2026年9月29日

NIRECO-VISION 100と中期経営計画について

創業100周年となる2031年を見据えて、当社グループの「ありたい姿」を定めたビジョンとして「**NIRECO-VISION 100**」を策定しております。

本中期経営計画は「NIRECO VISION-100」の実現に向けて各部門・グループ会社が積極的に参画し策定したものです。

また、本計画はこれまでの方針を踏まえつつ、オプティクス事業を成長の中核とする方向性をより鮮明にするとともに、その他の事業ポートフォリオについても見直しを行い、実効性の高いものとなりました。



経営理念（Mission）、ありたい姿（Vision）、価値観（Value）を「NIRECO-VISION 100」として整理しました。本ビジュアルは社内公募により選定されたものです。

計画サマリー：2031年3月期目標値

31/3期 売上高

170億円

26/3期比 1.5倍

31/3期 営業利益

33億円

26/3期比 1.9倍

31/3期 営業利益率

19.4%

26/3期 15.4%

オプティクス売上

61億円

26/3期比 2.1倍

売上高 約1.5倍 × 営業利益 約2倍 を5年間で実現

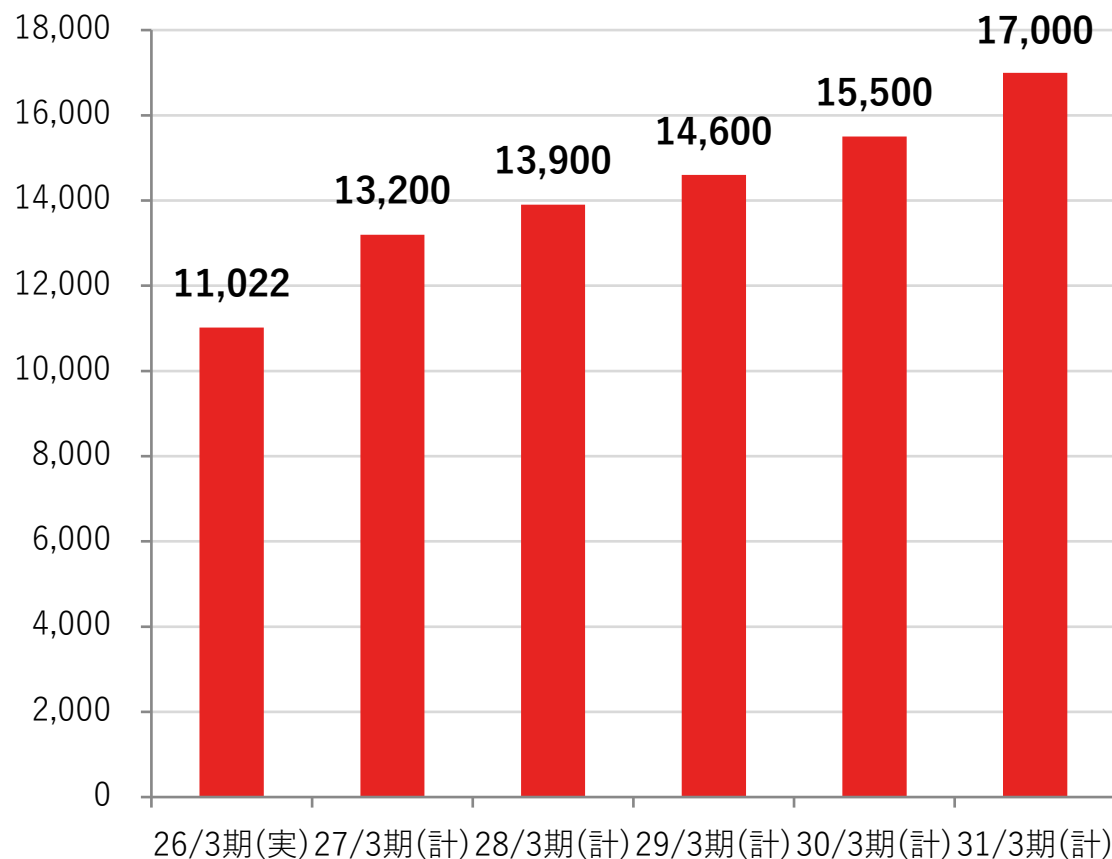
- ・ オプティクス事業を成長の中核に据え、半導体・光学関連需要を取り込む
- ・ 制御機器事業は鉄鋼・非鉄金属、機能性フィルム・軟包材分野の双方で海外・高機能材分野を深耕
- ・ 検査機事業はリソースを勝てる分野へ集中
- ・ 収益性向上に向けたポートフォリオ見直し
- ・ オプティクスの新棟建屋・生産設備。八王子・相模原を主とする更新・効率化投資を計画

26/3期実績：売上高110億円・営業利益17億円
→ **31/3期計画：170億円・33億円**

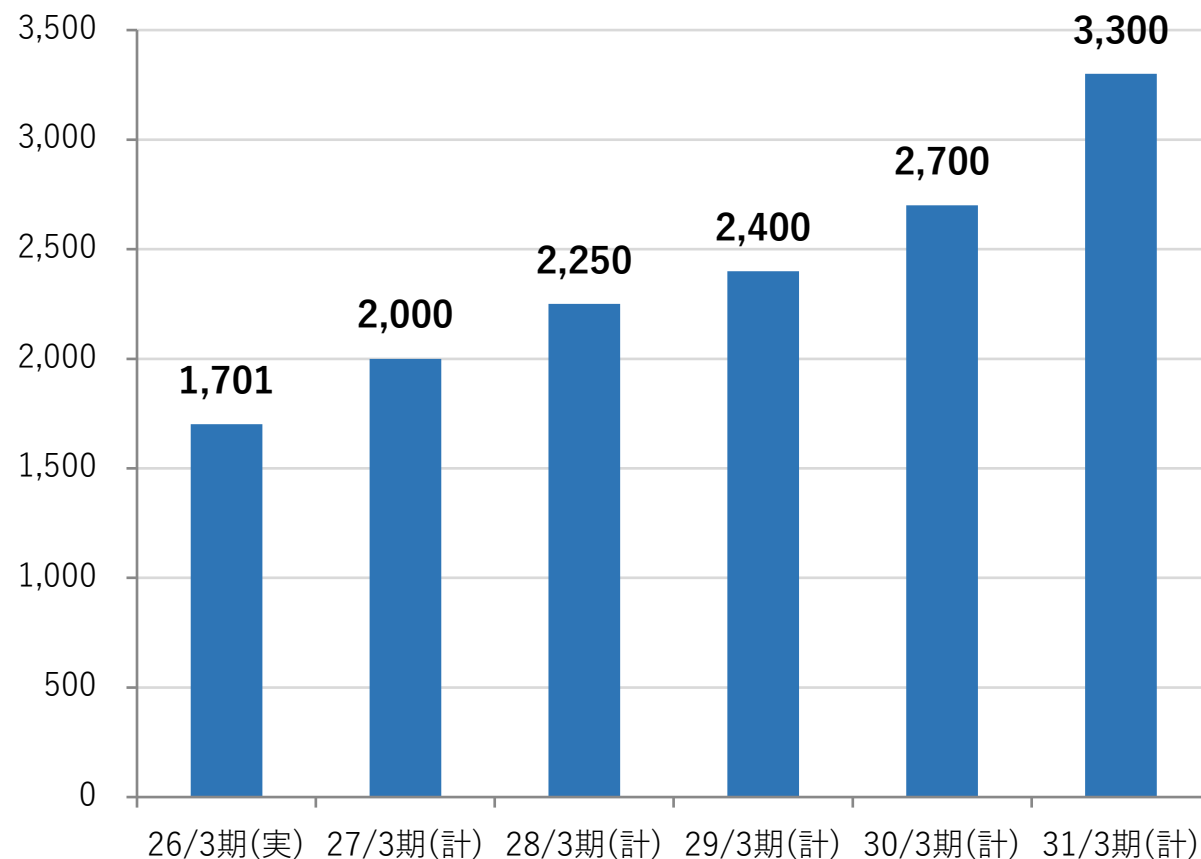
計画数値グラフ

26/3期実績を起点に、売上高・営業利益を段階的に拡大

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



計画前提

- ・ 28/3期：受注済大型案件が業績寄与
- ・ 29/3期：オプティクス事業の設備投資稼働（4Q見込）
- ・ 30/3期：オプティクス事業新設備通年寄与
- ・ 31/3期：設備投資の結果等を踏まえた効率化による収益性向上

数値データ

連結実績・計画（単位：百万円）

26/3期実績 27/3期計画 28/3期計画 29/3期計画 30/3期計画 31/3期計画

売上高	11,022	13,200	13,900	14,600	15,500	17,000
営業利益	1,701	2,000	2,250	2,400	2,700	3,300
営業利益率	15.4%	15.2%	16.2%	16.4%	17.4%	19.4%

成長の質 売上成長に加え、営業利益率を15.4%から19.4%へ引き上げ、利益成長を売上成長以上に高める。

※本計画には、今後もニレコグループが継続的に取り組む予定であるM&Aによる業績上積み余地は織り込んでいません。

セグメント別 計画サマリー

31/3期の到達水準。オプティクスが成長を牽引

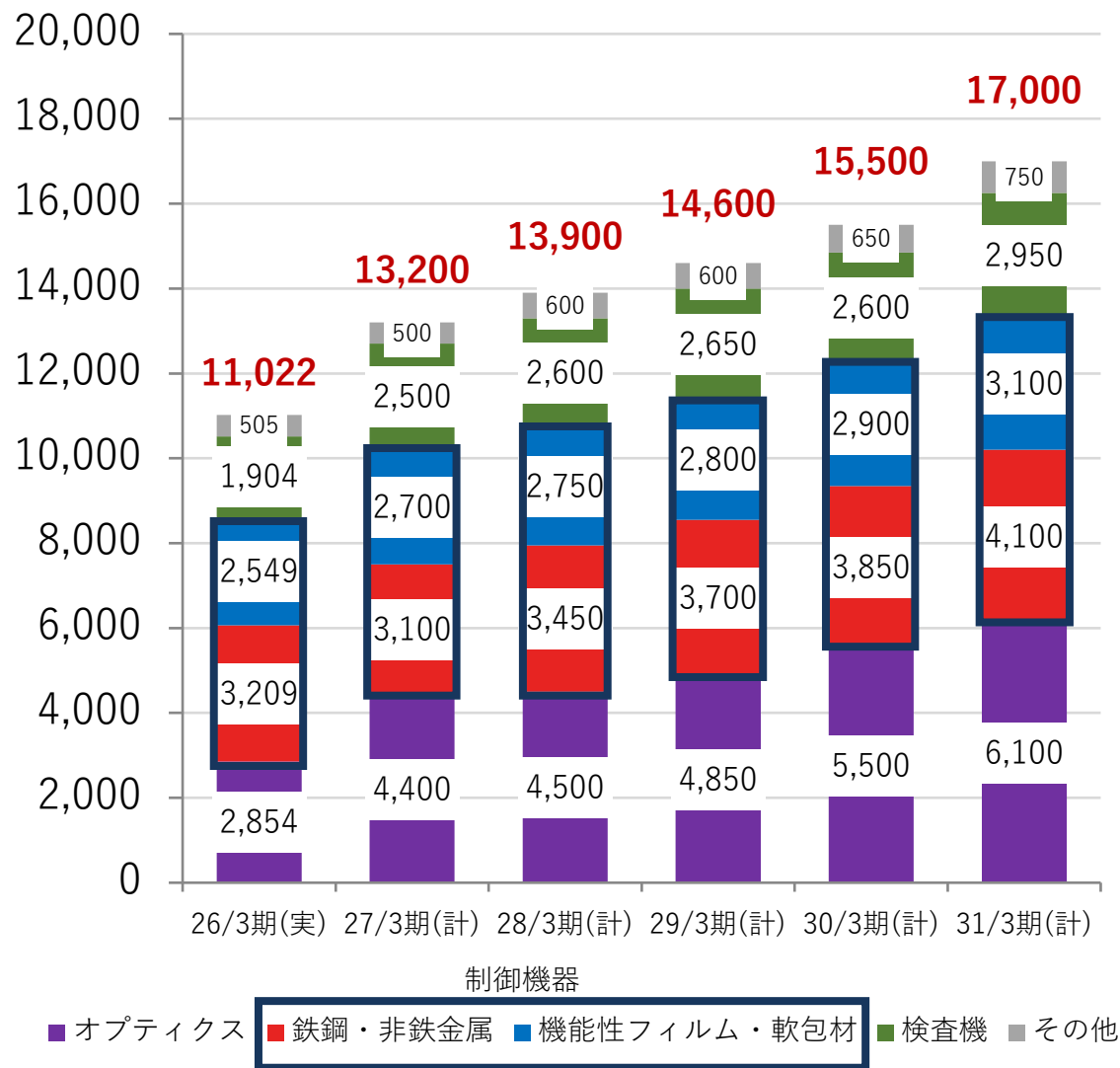
制御機器事業				
オプティクス事業	鉄鋼・非鉄金属	機能性フィルム ・軟包材分野	検査機事業	その他事業
売上高 6,100	売上高 4,100	売上高 3,100	売上高 2,950	売上高 750
セグメント利益 2,200	損益 850	損益 600	セグメント利益 300	セグメント利益 100
利益率 36.1%	利益率 20.7%	利益率 19.4%	利益率 10.2%	利益率 13.3%
26→31 売上 2.1倍	26→31 売上 1.3倍	26→31 売上 1.2倍	26→31 売上 1.5倍	26→31 売上 1.5倍

オプティクス売上 2,854百万円(26年3月期実績) → 6,100百万円(31年3月期計画)
 全社成長の原動力となる中核事業へ

セグメント別 計画グラフ

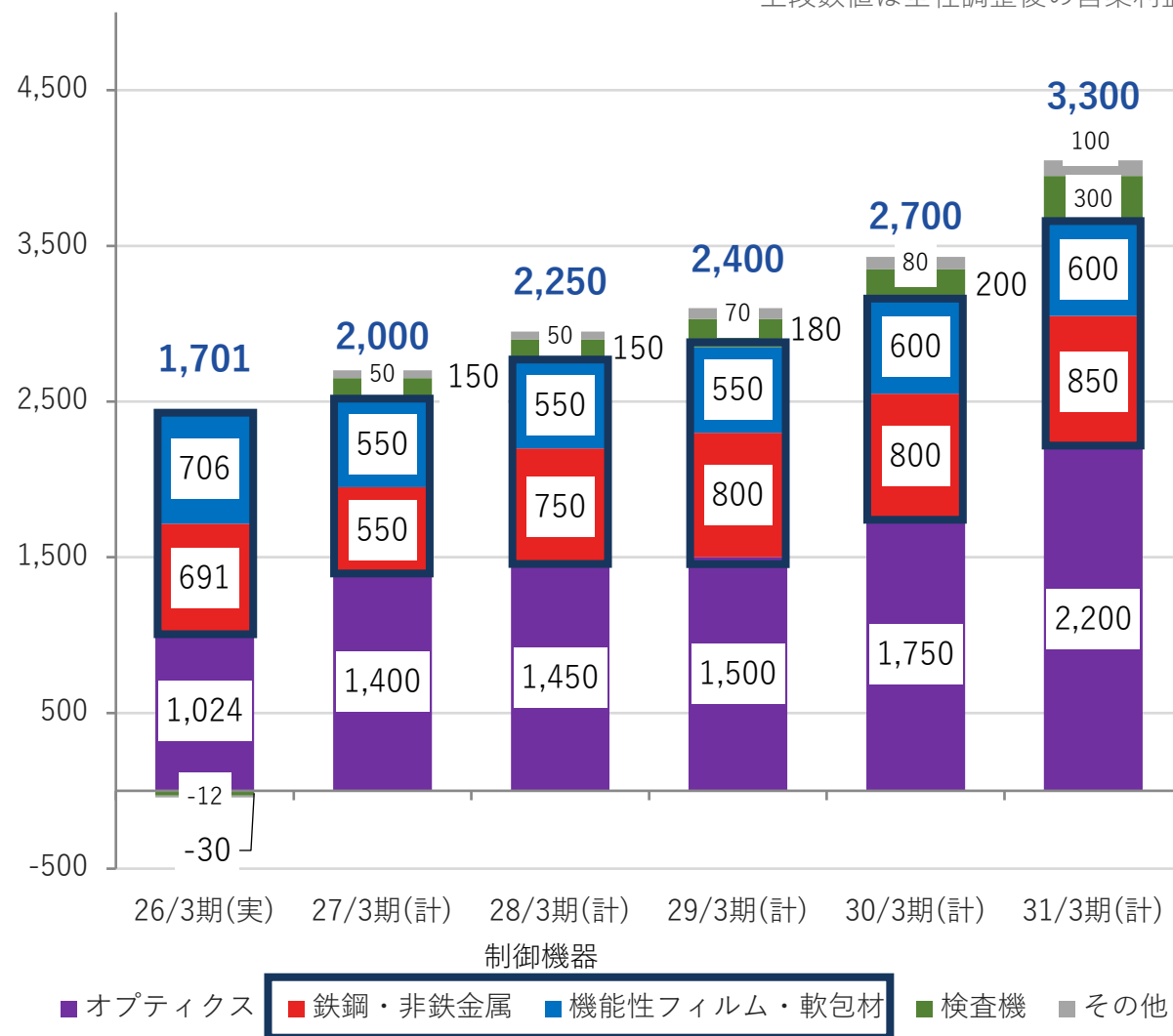
セグメント別の売上高・損益の推移（百万円）

売上高（百万円）



セグメント利益（百万円）

上段数値は全社調整後の営業利益



セグメント別 年度計画

26/3期実績から31/3期計画までの年度別推移（百万円）

区分	26/3期(実)	27/3期	28/3期	29/3期	30/3期	31/3期
売上高						
オプティクス事業	2,854	4,400	4,500	4,850	5,500	6,100
制御機器事業	5,758	5,800	6,200	6,500	6,750	7,200
└ 鉄鋼・非鉄金属	3,209	3,100	3,450	3,700	3,850	4,100
└ 機能性フィルム・軟包材	2,549	2,700	2,750	2,800	2,900	3,100
検査機事業	1,904	2,500	2,600	2,650	2,600	2,950
その他	505	500	600	600	650	750
合計	11,022	13,200	13,900	14,600	15,500	17,000
セグメント利益						
オプティクス事業	1,024	1,400	1,450	1,500	1,750	2,200
制御機器事業	1,398	1,100	1,300	1,350	1,400	1,450
└ 鉄鋼・非鉄金属	691	550	750	800	800	850
└ 機能性フィルム・軟包材	706	550	550	550	600	600
検査機事業	-30	150	150	180	200	300
その他	-12	50	50	70	80	100
全社調整	-678	-700	-700	-700	-730	-750
営業利益	1,701	2,000	2,250	2,400	2,700	3,300

31/3期 売上高

6,100
百万円

31/3期 セグメント利益

2,200
百万円

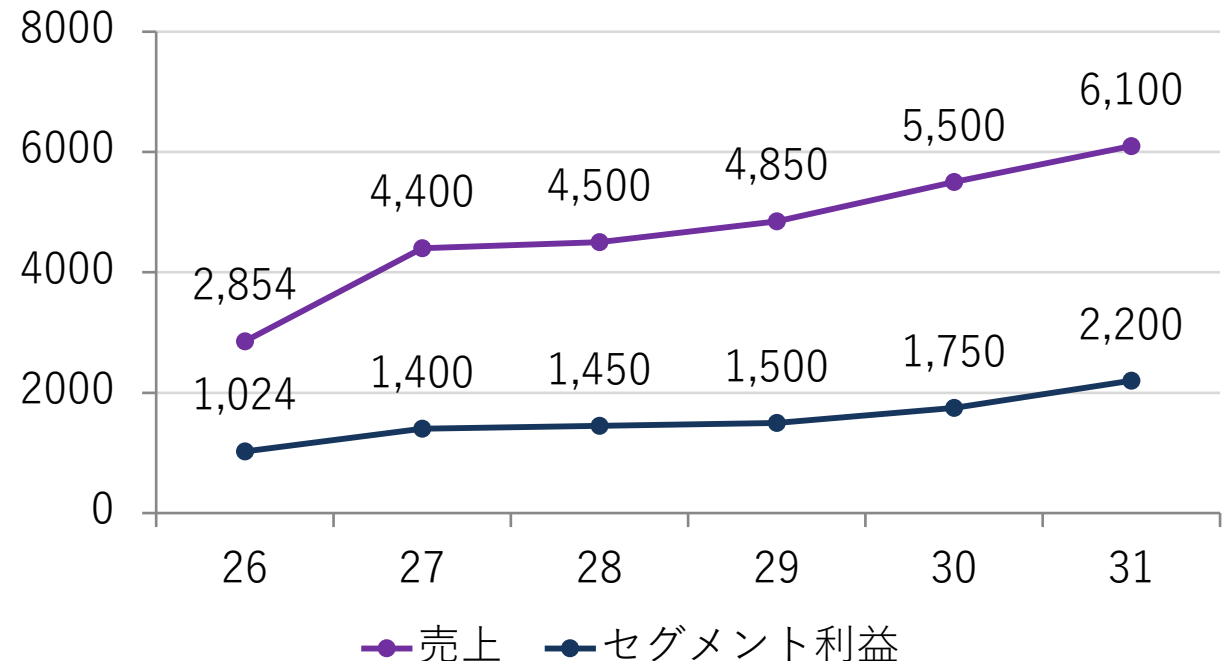
31/3期 利益率

36.1%

**26→31
売上 2.1倍**

成長戦略

- ・半導体・先端分野向け需要を着実に獲得
- ・生産能力増強と人材育成で供給制約を解消
- ・グループ内の結晶・加工・薄膜・光学シナジーを拡大



31/3期 売上高

7,200
百万円

31/3期 セグメント利益

1,450
百万円

31/3期 利益率

20.1%
26→31
売上 1.3倍

成長戦略

- 鉄鋼・非鉄金属分野：顧客基盤の維持・深耕と海外／IMS案件の創出
- 機能性フィルム・軟包材分野：高付加価値の検査・制御で採算改善
- 両分野の開発・生産・保守を共通化し、利益率20%台を確保

分野別内訳（31/3期、百万円）

分野	売上高	セグメント利益	利益率
鉄鋼・非鉄金属	4,100	850	20.7%
機能性フィルム・軟包材	3,100	600	19.4%
制御機器事業 合計	7,200	1,450	20.1%

検査機事業

事業基盤の改善に向け、強みのある分野へのリソース集中投下

31/3期 売上高

2,950
百万円

31/3期 セグメント利益

300
百万円

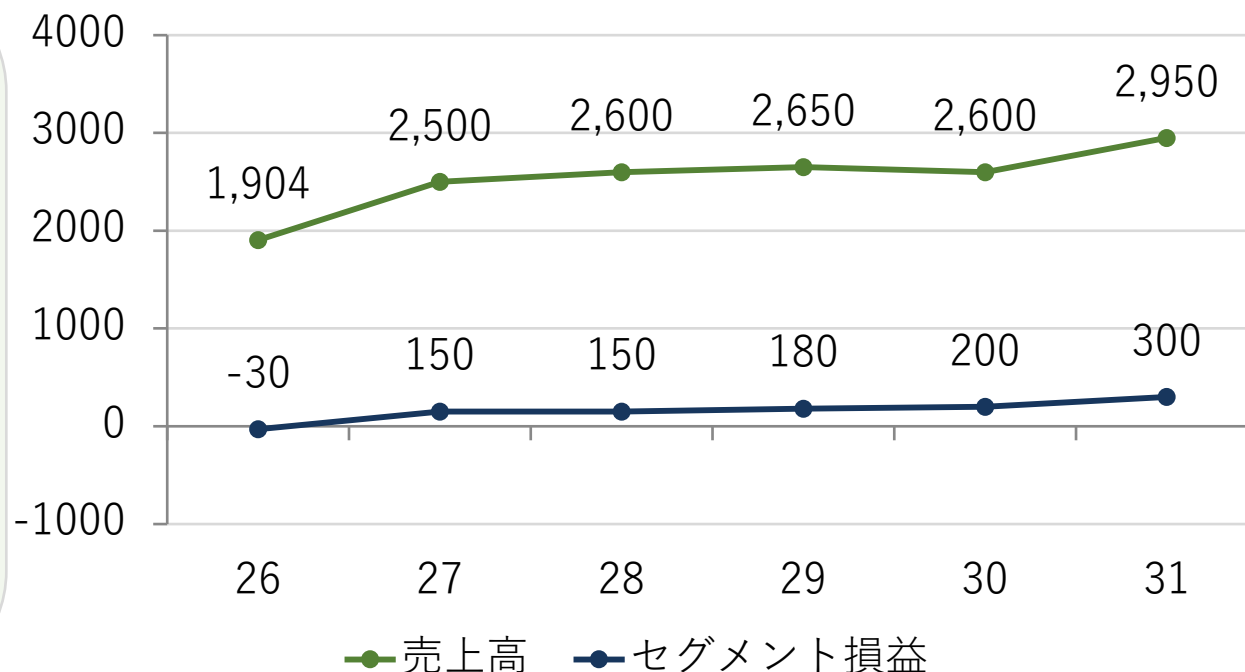
31/3期 利益率

10.2%

**26→31
売上 1.5倍**

成長戦略

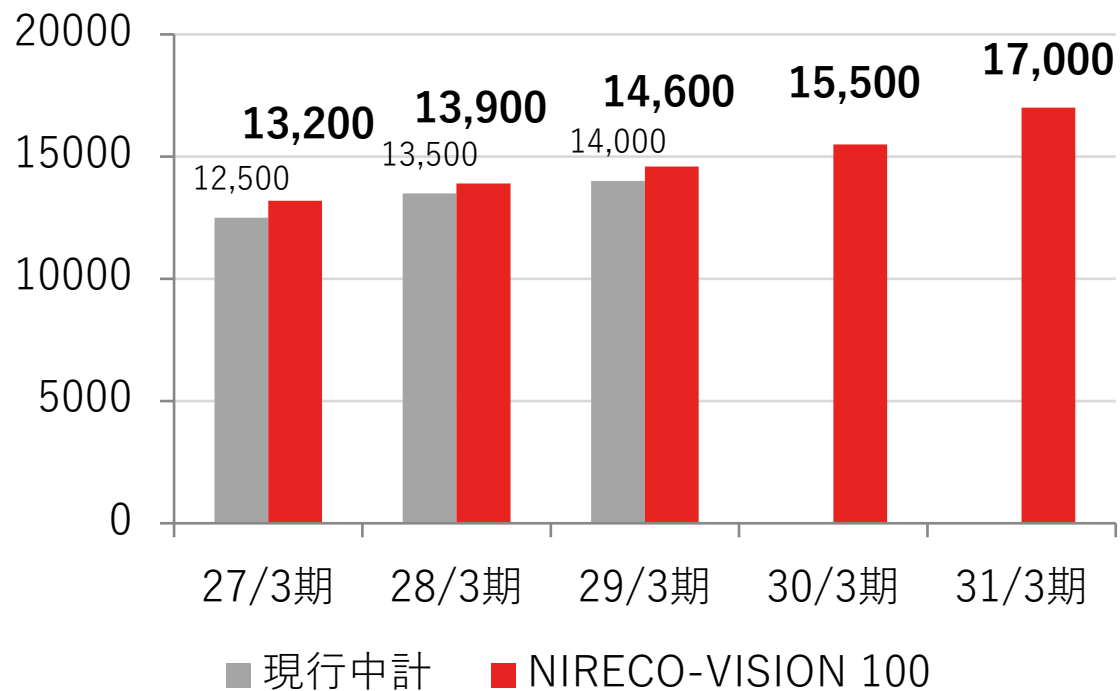
- AI活用や電極検査装置などの重点テーマにリソースを集約
- 選果・食品・高機能材・放射線計測装置など勝ち筋の明確な領域を設定
- 着実な利益率改善を重視



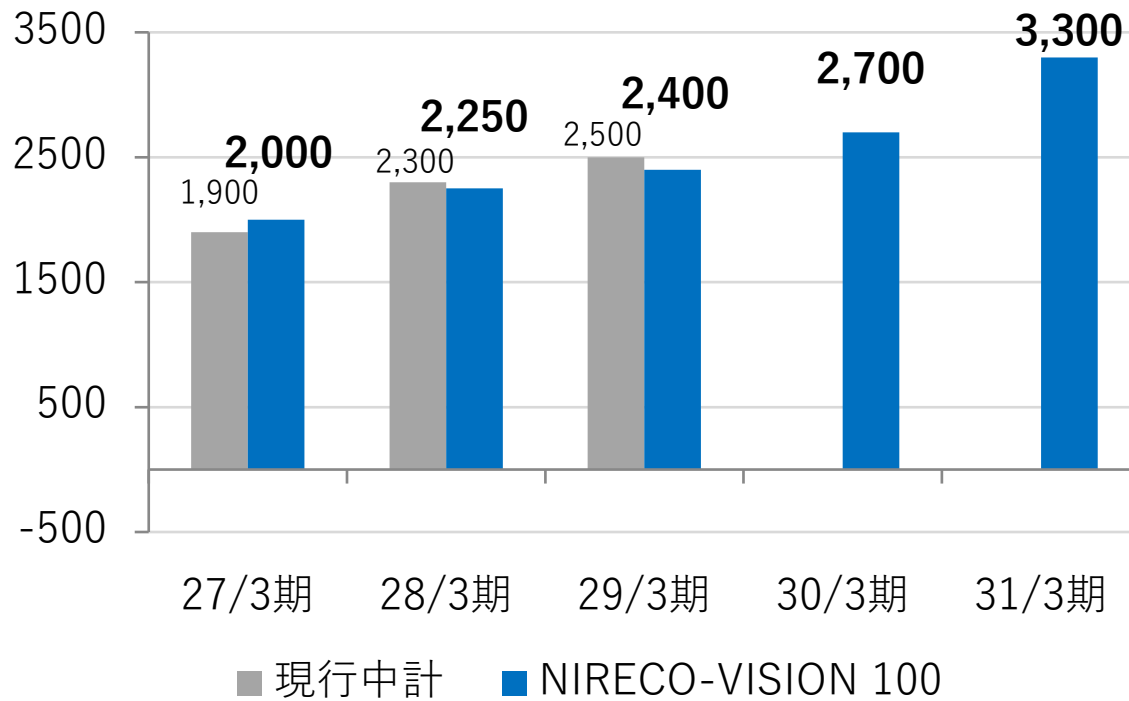
現行中期計画との比較

27/3期～29/3期を比較（30/3期以降は新計画のみ）。売上高を上方見直し

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



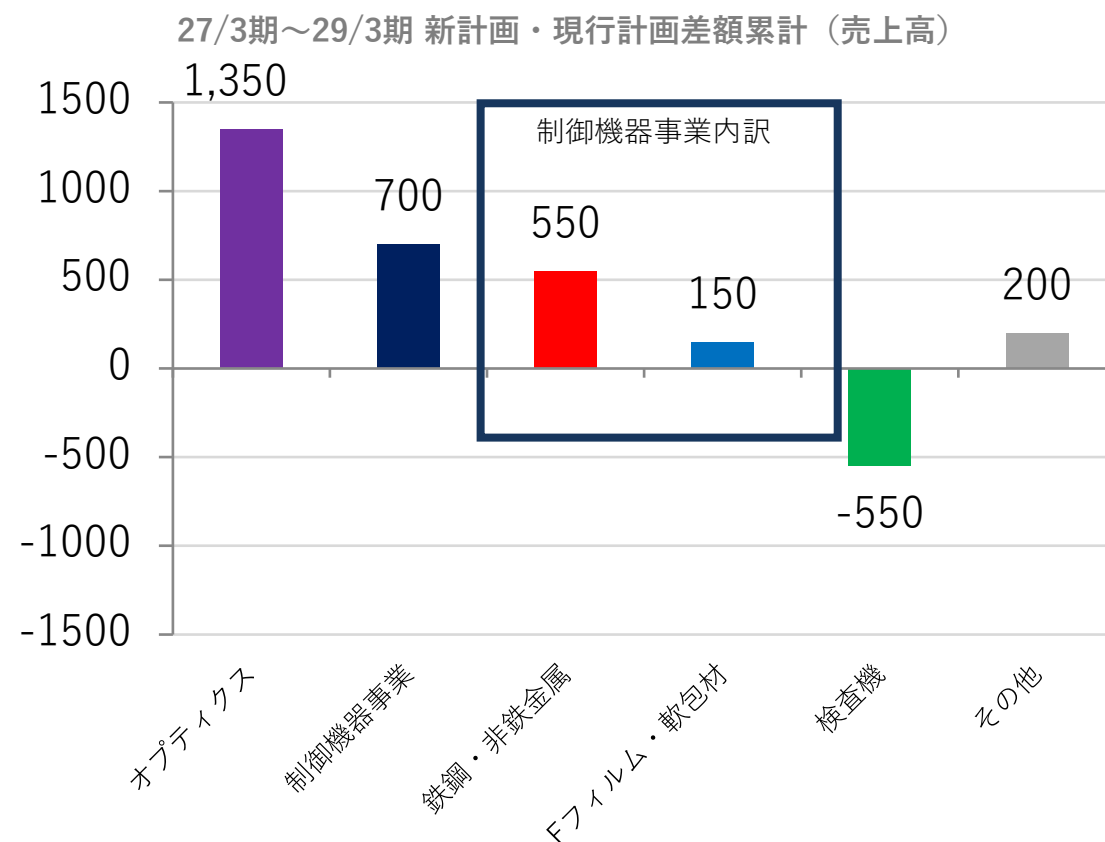
新中期経営計画は、これまでの中期計画の方針に基づき、増産投資の具体化を踏まえてオプティクス事業の成長を中核とすることをより鮮明にしております。また、他の事業ポートフォリオについても、市場の見通しや当社グループを取り巻く環境を考慮し見直しました。

各部門・グループ会社が積極的に計画策定に参画し検討を重ねた結果、営業利益については現行計画比で一旦低下するものの、30/3期以降には着実な利益成長を実現する、より実効性の高い計画となっております。

現行中計との差異：売上高

差額 = NIRECO-VISION 100 – 現行中計（単位：百万円）

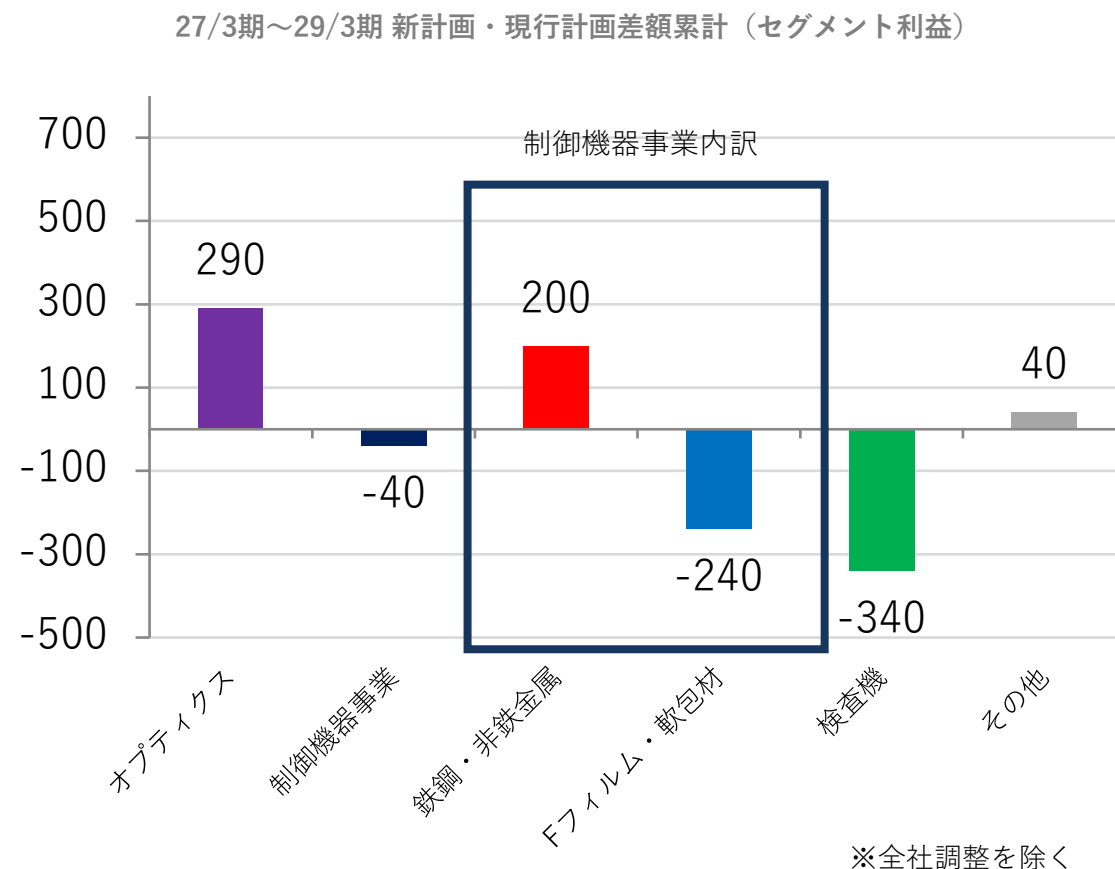
セグメント	27/3期	28/3期	29/3期
オプティクス	600	300	450
制御機器事業	100	200	400
└ 鉄鋼・ 非鉄金属	0	200	350
└ 機能性フィ ルム・軟包材	100	0	50
検査機	0	-200	-350
その他	0	100	100



オプティクスが上方修正を牽引。一方、検査機は市場環境の変化を踏まえ旧計画を見直し

現行中計との差異：セグメント利益 差額 = NIRECO-VISION 100 – 現行中計（単位：百万円）

セグメント	27/3期	28/3期	29/3期
オプティクス	200	100	-10
制御機器事業	-50	0	10
└ 鉄鋼・ 非鉄金属	0	90	110
└ 機能性フィ ルム・軟包材	-50	-90	-100
検査機	-50	-150	-140
その他	20	0	20



鉄鋼・非鉄金属分野とオプティクスの増益が業績をけん引し、計画期間中の全社利益は現行計画並みを確保

設備投資の方針

オプティクスの能力増強を最優先。既存拠点は効率化に向けた更新投資を検討

拠点・事業	投資内容	金額	目的・位置づけ
オプティクス事業	新棟建屋の建設（公表済み）	約20億円	能力増強に向けた建屋投資
オプティクス事業	生産設備（加工・検査装置等）	数億円規模の追加を検討	建屋とは区分した追加投資
八王子事業所・相模原工場他	更新・効率化投資	検討中	老朽化対応と生産性向上

投資タイムライン



※八王子事業所・相模原工場の効率化投資は検討段階であり、投資額・時期は今後精査のうえ公表予定。

オプティクス事業では建屋20億円に加え、生産設備へ数億円規模を追加投資し増産体制を構築。主に八王子事業所・相模原工場は老朽化更新を検討し、中期的な生産性向上と収益改善につなげる

Appendix:

制御機器事業分野別内訳

鉄鋼・非鉄金属分野

安定した需要を確保しつつ、IMS製品の拡販などで収益向上を目指す

31/3期 売上高

4,100
百万円

31/3期 利益

850
百万円

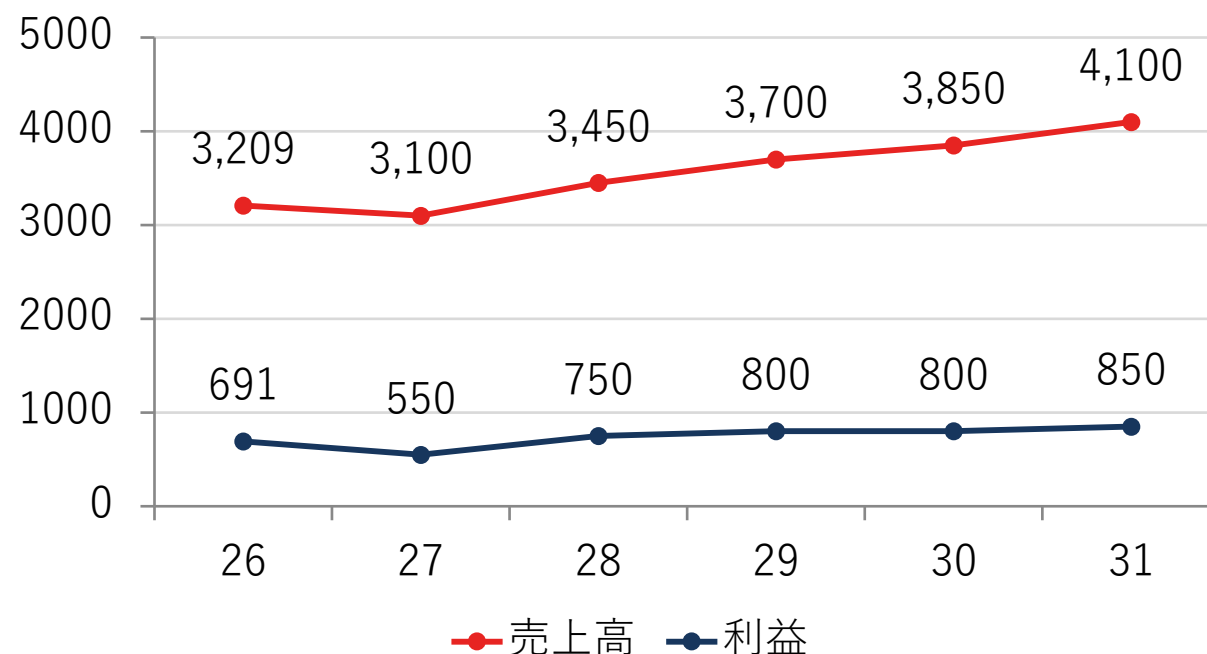
31/3期 利益率

20.7%

**26→31
売上 1.3倍**

成長戦略

- 鉄鋼・非鉄金属分野の顧客基盤を維持・深耕
- 海外市場とIMSの案件創出を継続
- 標準化・価格適正化で利益率20%台へ



機能性フィルム・軟包材分野

安定需要の確保とフィルムを利用したエネルギー分野の開拓

31/3期 売上高

3,100
百万円

31/3期 利益

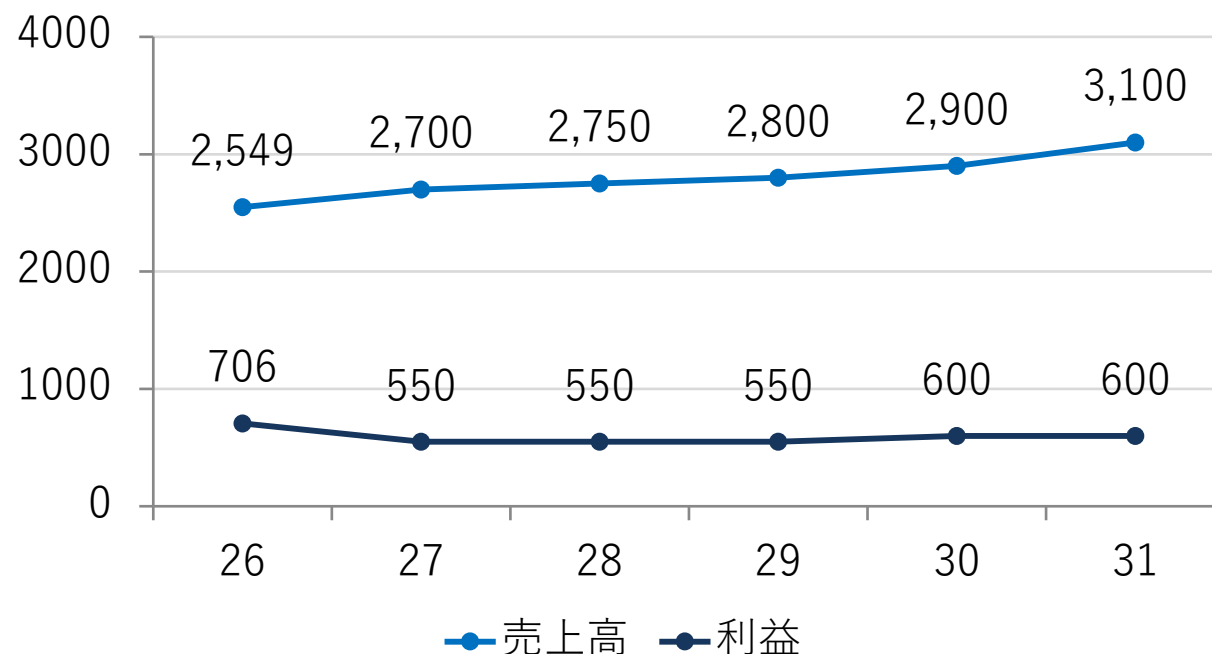
600
百万円

31/3期 利益率

19.4%**26→31
売上 1.2倍**

成長戦略

- ・ 高機能材・新エネルギー領域の顧客開拓
- ・ 製品統合と標準化で開発・製品更新負荷を抑制
- ・ 海外販売・保守体制を整備



NIRECO